

## 「食と緑の基本計画 2025」 骨子

## 1 食と緑の基本計画 2025 について

〔趣旨・性格〕

- 「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例（2004 年 4 月施行）」第 7 条に基づき知事が定める、食と緑に関する県の施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針
- 5 年ごとに見直し策定
- 「あいちビジョン 2025」の方向性に沿った計画とする

〔計画期間〕

- 2021 年度からの 5 年間（目標年度は 2025 年度）

## 2(2) 今後 5 年間で特に重視すべき視点

展望を踏まえ、2025 年度までの 5 年間では、次の 2 つの視点を特に重視して施策を展開

## 視点 1：人材の確保と生産性の向上

人口減少社会においても農林水産物の生産力を向上し、食料等の安定供給を実現  
農林水産業の応援者として、食と緑に対する県民の理解を促進

## 視点 2：持続可能な農林水産業・農山漁村の実現

環境との調和や持続可能性に配慮し、「新しい生活様式」や SDGs 達成等の社会要請に対応  
防災・減災対策や多面的機能維持のための保全活動などにより持続可能な農山漁村を実現

## 2(1) 食と緑に関わる展望及び現状と課題

## 2040 年に向けた展望

## 現状と課題

- |                                |  |
|--------------------------------|--|
| ○人口減少の進行                       | ○人口減少局面に突入、生産年齢人口の減少<br>→担い手（労働力）の確保                               |
| ○第 4 次産業革命の進展                  | ○革新的な新技術の社会実装<br>→スマート農林水産業による生産性向上                                |
| ○世界経済の多極化                      | ○経済のグローバル化<br>→競争力の強化  |
| ○感染症リスクの拡大                     | ○脅威を増す感染症リスク<br>新型コロナ、CSF などによる経済環境の悪化<br>→リスク回避、需要の喚起、消費習慣の変化への対応 |
| ○循環型社会への移行<br>SDGs の理念が世界に定着   | ○国際社会における SDGs 推進<br>→環境と調和した持続性の高い生産を推進                           |
| ○食の多様化の進展                      | ○県産農林水産物、農林水産業の認知度停滞<br>→県産農林水産物の消費拡大<br>農林水産業への理解促進               |
| ○災害リスクの増大                      | ○地球温暖化の進行等による気象災害の多発、激甚化<br>→県土の強靱化に向けた防災・減災対策                     |
| ○共助社会の必要性の増大<br>地域コミュニティの担い手不足 | ○中山間地域を中心とする人口減少の進行<br>→農山漁村の維持活性化に向けた関係人口の創出                      |

## 2(3) 2025 年に“めざす姿”

〔生産現場におけるめざす姿〕

## 持続的に発展する農林水産業の実現

- 人口減少社会において意欲ある担い手の確保と高い生産性の実現により、生産量の維持・向上が見込める農林水産業を実現するとともに、新型コロナ等の不測の事態に対処し、環境との調和にも配慮した持続可能な農林水産業の一層の普及をめざす。
- マーケット・インの視点による付加価値の向上や生産・流通面の改善などにより、本県農林水産業の存在感を高めるとともに、農林漁業者の所得向上や労働環境改善により、県産農林水産物の安定供給の実現をめざす。

〔県民の暮らしにおけるめざす姿〕

## 農林水産の恵みを共有する社会の実現

- 県民が本県農林水産業の魅力や重要性を理解し、健全な食生活を実践するとともに、県産品購入や農林漁業体験を楽しむ「農のある暮らし」が活発になる社会をめざす。
- 自然災害への対策、安全快適な生活環境の確保を進めるとともに、森林・農地・漁場の適切な保全・管理が図られ、農林水産業や農山漁村が有する多面的機能が十分に発揮される持続可能な社会をめざす。

## 3 施策体系

めざす姿の実現に向けて、産業施策と地域施策を“車の両輪”とし、バランスよく取り組む。

## 柱 1：生産の柱

- (1) 意欲ある人材の確保・育成
- (2) 生産性の高い農林水産業の基盤を作る取組の充実
- (3) 新たな需要を創造し持続可能な農林水産業の実現

## 柱 2：暮らしの柱

- (1) 農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進
- (2) 災害に強く安全で快適な環境の確保
- (3) 地域住民や関係人口によって支えられる活力ある農山漁村の実現

(主な取組は次頁)

《柱1：生産の柱》持続的に発展する農林水産業の実現

《柱2：暮らしの柱》農林水産の恵みを共有する社会の実現

(1) 意欲ある人材の確保・育成

ア 農業を支える多様な人材の確保・育成

新規就農者の確保、基幹経営体の育成、家族経営体への支援、女性農業者の経営参画、農業経営の承継支援、雇用労働力の確保、農業大学校・農業高校との連携や農福連携などにより農業を支える人材を確保。

イ 林業を支える担い手の確保・育成

新規就業者の確保、各種研修の実施による林業技術者の育成や意欲ある林業経営体の育成などにより林業の担い手を確保。

ウ 水産業を支える担い手の確保・育成

新規就業相談の対応、学習・交流活動の支援などによる次世代のリーダーの育成や新しい養殖技術の導入などにより水産業の担い手を育成。

(2) 生産性の高い農林水産業の基盤を作る取組の充実

ア 新技術・新品種の開発と普及

スマート農林水産業技術、遺伝子解析等の最新技術を用いた新品種・家畜新系統、森林情報管理システムや水産資源の評価・管理技術などの開発と現場への普及を推進。

イ 農林水産業を支える生産基盤の整備と環境づくり

農地の整備、農業水利施設等の長寿命化、耕作放棄地対策、森林経営計画の策定や施業の集約化、干潟・浅場の造成や魚礁漁場・貝類増殖場の整備や漁業生産に必要な栄養塩濃度の確保などを推進。

ウ 産地の体制や生産設備の強化

生産から流通までの一体的な産地支援、水田での高収益作物等の作付拡大、畜産クラスター構築による高収益型畜産の実現、木材加工体制の整備や栽培漁業の拡充などにより生産力を強化するとともに、新型コロナ等の感染症発生時にも農林水産物の安定供給が可能となる産地体制を整備。

エ 食の安全・安心の確保

GAPによる生産工程の改善、CSF等の家畜伝染病発生に備えた危機管理の徹底、貝毒検査の実施や食品製造施設へのHACCPシステムの導入などを推進。

(3) 新たな需要を創造し持続可能な農林水産業の実現

ア マーケット・インの視点に立った生産・流通の改善

加工・業務用野菜等の実需ニーズに対応した生産の拡大、新たなバリューチェーンの創出、電子商取引等の「新しい生活様式」に対応した多様な流通チャネルの構築、木材や水産物の流通システムの構築などの推進。

イ 農林水産物等に関する国内外での需要の開拓

6次産業化による付加価値向上、トップセールス等によるPR、インバウンド対応の強化や県産木材の利用拡大などにより需要を開拓し、新型コロナ等の不測の事態にも対処。

ウ 環境との調和に配慮した持続可能な農林水産業

環境保全型農業、有機農業、エコフィードによる飼料代替、循環型林業による森林資源の持続的利用や漁獲可能量制度に基づく資源管理型漁業などを推進。

(1) 農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進

ア 県産農林水産物への理解を深める取組の推進

いいともあいち運動、花いっぱい県民運動や全国植樹祭の理念を継承するイベントの開催などにより県産農林水産物への理解を促進。

イ あいちの農林漁業を応援・体験し参加する機会の提供

援農、農業体験、間伐体験、漁業体験などの機会の提供や市民農園や産地直売所への支援などにより農林水産業に親しむことのできる環境づくりを推進するとともに、産地直売所や観光農園などが「新しい生活様式」に対応できるよう支援。

ウ 幅広い世代に対する食育の推進

市町村や食育推進ボランティアなどとの連携により、県産農林水産物の積極的な活用、バランスの良い食生活の実践や食品ロス削減などに向けた食育の取組を展開。

(2) 災害に強く安全で快適な環境の確保

ア 農山漁村地域の強靱化に向けた防災・減災対策

農業用ため池や排水機場などの耐震対策、豪雨対策の推進、治山施設や海岸防災林の整備やため池ハザードマップの活用による県民啓発などを実施。

イ 快適な生活環境の確保

農林道や生活排水処理施設の整備や保全、里山林の整備などを実施。

ウ 暮らしを支える森林・農地・漁場の整備

あいち森と緑づくり税を活用した森林や都市の緑の整備、環境に配慮した農業水利施設等の整備や漁場環境の改善などに資する干潟・浅場と魚礁漁場の総合的な整備を実施。

(3) 地域住民や関係人口によって支えられる活力ある農山漁村の実現

ア 地域の特性に応じた農山漁村の活性化

都市部や中山間地域の農業振興、愛知産ジビエの利用拡大、グリーンツーリズムや森林レクリエーションなどへの支援・整備により農山漁村の活性化を推進するとともに、農業と他の仕事を組み合わせた働き方（半農半X）の提案や、関係人口として地域を支える人材の確保を推進。

イ 多面的機能の持続的な発揮につながる活動の推進

日本型直接支払制度の活用による農地等の維持管理、県民との協働による緑化や森林整備、漁場の保全活動などを実施。

※下線は「食と緑の基本計画 2025」で新たに記載する事項。

## 4 重点プロジェクト

「食と緑の基本計画」では、施策体系に掲げた取組を総合的かつ計画的に推進するとともに、関連する取組を効果的に組み合わせる展開を図る必要があります。

そこで、新型コロナ感染拡大によるダメージ克服と「新しい生活様式」への対応に取り組む『新型コロナウイルス対策』と、『農林水産業の生産力強化』、『県産農林水産物の需要拡大と農山漁村の魅力向上』、『農山漁村地域の防災減災対策』をテーマとして設定し、必要な各種の施策を「重点プロジェクト」として効果的な施策の展開を図ります。

### プロジェクト①：新型コロナウイルス対策

#### 魅せよ愛知の底力、コロナ禍克服プロジェクト

〔概要〕

新型コロナウイルス感染症とそれに伴う経済環境の悪化は、農林漁業者の経営や農林水産物の流通、消費に大きな影響を与えた。この状況から速やかに脱却し、今後、同様の不測の事態が発生しても影響を最小限に抑えるための取組を生産・消費の両面から進めるとともに、いわゆる“新しい生活様式”の下での消費習慣の変化を踏まえた新たな流通・消費の仕組み作りなどに取り組む。

〔パッケージ化して示す主な施策〕

- ・農林水産物において回復した需要を取り込むため新たな販路の開拓・拡大
- ・栽培品目の多様化や転換などに対応できる生産基盤の整備や生産設備の高度化を支援
- ・BCPの策定支援や各種収入保険制度の普及などにより農林漁業経営体の業務継続を支援
- ・電子商取引や産地直送コーナーの充実など、新しい生活様式への対応を支援

### プロジェクト②：農業の生産力強化

#### 技術力×人材の活躍で切り開く農業生産力向上プロジェクト

〔概要〕

全国有数の生産規模を持つ施設園芸の高度化に向けた「あいち型植物工場」の普及や次世代の農業技術である“スマート農業”の開発と現場実装など、技術力による生産性の向上や農産物の高品質生産を一層進めるとともに、それらの先端技術を使いこなすハイレベルな生産者・産地の育成や農業生産力の要である生産基盤の充実強化を図り、新型コロナ等の不測の事態にもしっかりと対応しうる、足腰の強い産地を育成する。

〔パッケージ化して示す主な施策〕

- ・スマート農業技術の開発や産地実装に係るソフト・ハード両面からの支援
- ・農業大学校での研修や経営指導の専門家派遣による農業者の技術・経営能力の向上
- ・農地の大区画化・汎用化や農地中間管理事業の活用による担い手への農地集積・集約化

### プロジェクト③：林業の生産力強化

#### 持続可能な社会に向けた「あいちのスマート林業」実現プロジェクト

〔概要〕

本県の充実した森林資源を生かすため、森林区分の明確化やICTなど新たな技術を活用した「あいちのスマート林業」を推進するとともに、製材品の品質や性能の明確化や設計士等の関係者との連携などにより都市部における木材利用を推進し、持続可能な林業を実現する。

〔パッケージ化して示す主な施策〕

- ・航空レーザー計測等による森林情報のデジタル化
- ・商業施設等の木造・木質化を推進
- ・木材利用への理解促進に向けた事業の実施

### プロジェクト④：水産業の生産力強化

#### 豊かな海の再生に向けた漁業生産力強化プロジェクト

〔概要〕

漁場の造成、栽培漁業の拡充や資源管理の強化、新たな養殖技術の導入、生物に必要な栄養塩量の確保など漁業生産力の強化による漁家経営の向上を推進し、新型コロナ等の不測の事態にもしっかりと対応しうる体制を整備する。

〔パッケージ化して示す主な施策〕

- ・干潟・浅場や魚礁漁場および貝類増殖場の造成
- ・新規魚種の生産など栽培漁業の拡充
- ・カキなど新たな養殖業の導入

### プロジェクト⑤：需要拡大・魅力向上

#### アジア競技大会に向けたあいちの農林水産業魅力向上プロジェクト

〔概要〕

国内外から多くの観光客が来県するアジア最大のスポーツの祭典であるアジア競技大会等の機会を活用し、愛知県産食材や木材などの供給やあいちの花によるおもてなしを行い、また、愛知の魅力ある農山漁村を多くの人に訪れてもらうことで地域の活性化につなげるため、県産農林水産物のPRや農山漁村の魅力向上に取り組む。

〔パッケージ化して示す主な施策〕

- ・愛知県産農林水産物のブランド化
- ・知事トップセールスや各種メディアを活用した県産農林水産物のPR
- ・日本一の「花の王国あいち」のPRや花贈り文化の普及
- ・インバウンド需要の高い名古屋コーチンやみかわ牛などの県産畜産物の需要拡大

### プロジェクト⑥：地域の防災・減災

#### 安全・安心な暮らしを守る農山漁村地域防災・減災プロジェクト

〔概要〕

全国有数の農業県・日本一の産業県あいちを支える県土の強靱化を進め、安全で安心できる農山漁村の豊かな暮らしの実現を目指すため、ハード・ソフト対策を適切に組み合わせて総合的に推進する。

〔パッケージ化して示す主な施策〕

- ・治山施設の整備・機能強化や適切な森林整備
- ・農業水利施設や漁港施設、海岸保全施設の耐震対策等
- ・ハザードマップの周知等による防災・減災への意識向上
- ・被災後における排水機場の早期稼働に向けた体制強化

## 5 基本計画の達成にむけて

- ・「食と緑の基本計画推進会議<sup>※</sup>」において、計画の進捗確認を行い、必要に応じて施策・重点プロジェクトの見直しを行う。また、毎年度「食と緑の年次レポート」を作成し、公表する。
- ・目標は重点プロジェクト毎に設定する。

※学識経験者、消費者の代表、農林漁業者の代表などを構成員とし、年1～2回開催。